

地域が抱える現実的な課題に向き合い 主体的に考え、解決する実践力を養う

アクティブラーニングとは学生が主体的に考え行動する学び。ワークショップを取り入れた講義と、体験・交流を通して地域の現状を学ぶフィールドワークを組み合わせて、地域が抱える現実的な課題に広い視野で取り組み、解決・実践できる力を養っていきます。関東学園大学では過疎化が進む地域や、観光客減少に悩む自治体など、さまざまな地域と連携。学生ならではのフレッシュな発想を生かして画期的な活性化策を提案・協働し、地域を元気にしています。



フィールドワークの紹介

群馬県事業「やま・さと応援隊」の活動

群馬県の事業「やま・さと応援隊」の取り組みでは干し柿を素材として町や生産者組合と会議を重ね、市場調査や実際に摘果作業などを手掛け、加工品の開発に取り組みました。その結果、Challenge IoT Award 2016関東大会で、キャンパス優秀賞と、協議会賞を同時受賞しました。受賞した加工品は「干柿みそ」を発展させ、幅広い用途が期待できる干柿ペーストにしたもの。伊勢崎市内の企業の協力を得て試食会を開いたところ、94%の人が「おいしい」と回答したことが商品化の決め手となりました。応援隊の活動3年目を迎える次年度も引き続き神流町と連携して、干柿ペーストの販路確保と拡大に取り組み、秋までに商品の量産体制を構築する予定です。過疎化に悩む神流町の活性化を応援します。



学生が企画開発した商品「柿のひとやすみ」。東銀座の群馬県アンテナショップにて試食販売しました。

大泉町役場行政外部評価

群馬県大泉町役場との連携事業であり、大学の学生が大泉町が実施する6事業について外部評価を行いました。評価は、実績報告書の精査、職員に対するヒアリング、実地調査、ほかの自治体における事業との比較などに基づいて行い、改善点とその改善策などの評価結果を大泉町役場に報告します。

ブラジル人学校との交流

本学、大泉町とブラジル人学校が連携し、ブラジル人の子どもたちとの交流会を開催しました。交流会では子どもたちに日本の言葉や慣習、防災知識などを教えました。外国人の住民の方々とのふれあいを通じて、異文化理解を深めるとともに多文化共生を実感しました。

地域スポーツ振興活動

「おおたスポレク祭」に参加しました。フィールドワーク学習の一環として、太田市が主催するファミリー向け大型イベントに、学生がボランティアとして参加しています。

おおた100km徒歩の旅

太田青年会議所主催の「おおた100km徒歩の旅」事業に毎年参加しています。本事業は約100名の小学生が数日かけて太田市近郊100kmを徒歩で旅するという企画。学生は、企画の段階から参加することで、コンピテンシーの向上を図る機会となっています。

太田市商工会議所主催 呑龍市の参加

太田市商工会議所が毎年開催する呑龍市に参加し、大学内に設置するハウスにて栽培したトマトベリーと伊豆熱川の観光農園「丸鉄園」の、ニューサマーオレンジを販売します。学生が「地域経済の現場」において体験学習できる機会となっています。

その他のフィールドワーク

- 防犯ボランティア (P17)
- 伊豆熱川丸鉄園フィールドワーク (P15)
- 波川市道の駅の魅力向上・観光資源発掘 (P19)
- おおたまちの先生見本市 (P23)
- 「おおた食と光の祭典」への参加
- 国際料理教室
- 関東学園大学サツマイモファーム など

関東学園大学地方創生研究所

平成27年度に関東学園大学は地方創生に関する研究及び地方創生を推進し、地方の発展に寄与することを目的とした地方創生研究所を設立しました。所長を含め7名の教員が所属しています。



地方創生フォーラム群馬

地方創生の紹介

地方創生の取り組みは学生の多彩な学びの場ともなっています。地域や社会といった知のフィールドを通じて、地域で活躍できる力を培うことを目指しています。

地方創生フォーラム群馬・わがまちCMコンテストぐんま大会

中山間地域の活性化などについて考える「地方創生フォーラム群馬」を開催しました。「ICTの利活用による地域活性化」と題する講演やパネルディスカッションでは、本学の学生が「神流町の観光まちづくりを考える」をテーマに群馬県神流町で取り組む県事業「やま・さと応援隊」を紹介しました。また本学が全面協力する「わがまちCMコンテストぐんま大会2017」の表彰式も開催され、審査の結果、11作品が受賞。「風景」「食」「学校」のいずれかをテーマに、群馬県内のまちの魅力を題材にした動画70点の応募作品から選ばれました。受賞作品は群馬県の魅力を発信する手段として観光施設などの映像に活用される予定です。



産官学金連携による次代を担う人材育成構想

本学は国際的協調の態度の形成をはかり、地域社会の要望に応えうる人材を育成することを目的としています。このことをとらえ、地方創生研究所では周辺の地域特性からもグローバルに活動する地元企業を支える人材育成を目指しています。

産官学金連携による次代を担う人材育成構想イメージ

海外の職場体験などの
国際感覚の視点を
有する人材

経済学・経営学を
修得している人材

ひゃく かばね
百の姓 観光農園 丸鉄園

静岡県伊豆熱川にある観光農園。学校法人関東学園が一部出資する農業生産法人百の姓が運営しています。平成27年に東伊豆町の自治体などと協議を重ね、人・農地プランの策定や認定農業者の認定を受けました。そして静岡県農地中間管理機構と農地賃貸借契約を締結し、現在伊豆熱川で観光農園の運営を行っています。



忍野村

山梨県忍野村は富士山麓に位置し、名水として知られる忍野八海（湧水・天然記念物・名水百選）を有しています。本学は忍野村に対して地域創生の提案などを通じて、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目指しています。また、学生の学びの場としても機能しています。

